

## [08] 九州大学農学部農場研究資料表紙総括等

<https://hdl.handle.net/2324/12563>

---

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 8, 1985-10. 九州大学農学部附属農場  
バージョン：  
権利関係：

## 昨年度事業の総括

## 昭和59年度の回顧

原町農場に待望の実験実習棟が昭和59年7月に完成した。鉄筋コンクリート平屋建て、面積は1,465㎡で、教官研究室、実験室、講義室のはかに、教官・学生50名の宿泊施設も整備された。集中実習や宿泊実習で学生や留学生の体験的農業教育が行いやすくなったし、農場を舞台として行われる試験研究もやりやすくなり、農場の活用が一層促されることとなった。

人事面では、作物部門主任の立野喜代太氏が59年8月に教授に昇任し、佐賀大学農学部附属農場に栄転され、その後任に佐藤光助教授を迎えた。また松尾恒喜技官、古賀弥六技官、坂口ミツ子技官が昭和60年3月31日付で定年退職された。その後任は定員削減のあおりをくって、完全補充は難しい状況にあり、農場運営は一層厳しい環境となった。

一方、農場業務については、学生実習は計画通り行われた。生産面では、果樹が前年夏の乾燥、春先の異常低温に災いされて、若干減収となったが、総じて所期の目標を達した。研究面では、この資料に収録されているように、農業の新しい生産体系のための試験研究が、それぞれの部門で展開された。人や研究費の制約が厳しい中で、学生実習のための農場運営業務が優先し、必ずしも満足すべき成果を挙げえていない。施設・設備の一層の充実が待たれる。

59年9月から10月にかけて、地域農業への貢献を具体化するために、地元粕屋郡の農業関係者を対象に、公開講座「近郊農業の発展方向を探る」を主催した。

研究部長 藤 枝 國 光

## 昭和59年度畜産物の生産実績

品目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	研究部長
玄米	18,180 kg + 52 袋					
小麦	3,900 kg					
馬鈴薯	894 kg					
スイートコーン	27 kg + 120 袋					
ダイズ	137 kg	365 kg				
ダイズ (青)	8 袋					
アズキ	217 袋					
ダイズ (黒)	270 袋					
ハトムギ	30 kg					
ミカン			10,824 kg			
ブドウ			2,248 kg			
カキ			158 kg			
ウメ			502 kg			
リンゴ			141 袋			
キュウリ				5,151 kg		
メロン				1,649 個		
セルリー				1,794.9 kg		
甘藷				120 kg		
鉢物				1,637 鉢		
函牛乳					53,925 函	
卵					81.3 kg	
ヨーグルト					1,275 函	
廃鶏					15 羽	
牛					6 頭	
豚					4 頭	
バター					30 kg + 53 個	
肉加工品					89.22 kg	
カボチャ						226.5 kg
ニガウリ						252 本
ダイコン						327 束

## 昭和 59 年度生産収入実績

品 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	研究部長	計
玄	米	6,477,433					6,477,433
小	麦	238,680					238,680
馬	鈴 薯	96,920					96,920
	スイートコーン	28,840					28,840
	ダ イ ズ	38,913	103,678				142,591
	ダイズ(青)	1,600					1,600
	ア ズ キ	54,250					54,250
	ダイズ(黒)	40,500					40,500
	ハ ト ム ギ	8,100					8,100
	ミ カ ン		1,085,750				1,085,750
	ブ ド ウ		815,636				815,636
	カ キ		23,700				23,700
	ウ メ		151,900				151,280
	リ ン ゴ		30,280				30,280
	キ ュ ウ リ			742,926			742,926
	メ ロ ン			1,192,125			1,192,125
	セ ル リ ー			242,468			242,468
	甘 藷			8,400			8,400
	鉢 物			742,540			742,540
	函 牛 乳				10,245,750		10,245,750
	卵				21,138		21,138
	ヨーグルト				197,640		197,640
	麩 鶏				1,250		1,250
	牛				3,935,354		3,935,354
	豚				132,174		132,174
	バ タ ー				20,750		20,750
	肉加工品				109,105		109,105
	カボチャ					22,980	22,980
	ニガウリ					12,600	12,600
	ダイコン					1,600	1,600
計		6,985,236	103,678	2,107,266	2,928,459	14,663,161	37,180 26,824,980

単位：円

## 昭和59年度学内公費移算実績（施設園芸）

大 き さ	貸 鉢			計
	大 鉢	中 鉢	小 鉢	
数 量	216	828	996	2,040
金 額	324,000	828,000	498,000	1,650,000

単位；円

## 昭和59年度経営支出実績

費 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	計
種 苗 費	19	—	—	224	164	407
肥 料 費	553	34	49	6	—	642
農 業 薬 剤 費	504	165	402	13	—	1,084
光 熱 動 力 費	425	119	270	618	887	2,319
その他の諸材料費	219	57	889	332	1,453	2,950
水 利 費	97	—	—	—	—	97
賃借料及び料費	—	—	349	56	—	405
飼 料 費	—	—	—	—	4,173	4,173
獣医師料及医薬品	—	—	—	—	188	188
建物及び土地改良	—	292	200	—	612	1,104
農 機 具 費	1,086	813	813	933	101	3,746
家 畜 費	—	—	—	—	—	—
雇 用 費	—	—	1,846	1,625	—	3,471
そ の 他 費	174	26	—	15	512	727
計	3,077	1,506	4,818	3,822	8,090	21,313

単位；千円

# 作物研究室

## 1. 昨年度の収支実績

第1表 収入実績

費目	生産量	生産額(千円)
玄米(政府米)	358(表)	6,105
(超過米)	11(表)	190
(混合米)	13(表)	181
コムギ	3,900(kg)	239
ジャガイモ	849(袋)	97
スイートコーン	241(kg)	29
ハトムギ	30(kg)	8
ダイズ	137(kg)	39
(黒豆)	270(袋)	41
(青大豆)	8(袋)	2
アズキ	217(袋)	54
計		6,985

第2表 支出実績

費目	金額(千円)
種苗費	19
肥料費	553
農薬費	504
燃料費	425
農機具費	1,086
諸材料費	219
水利費	97
その他費	174
計	3,077

## 2. 生産概況

- (1) 水稻; 好天に恵まれ、登熟良好で平年作
- (2) 小麦; 生育期の低温により生育が遅れ、早刈のため品質は不良であったが平年作
- (3) 豆類; 降雨による播種おくれ、播種後、生育中の乾燥害のため、発芽、生育不良、減収。水田転換畑は、灌水が充分に出来たので、豊作
- (4) ジャガイモ; 春作は生育良好で豊作、秋作は乾燥害のため、減収

## 3. 直接費

- (1) 防除費の節減; 害虫、多年性雑草の発生が少なく散布回数を減らした(5割減)
- (2) 備品費; 田植機、鎮圧ローラー、除草剤用噴口を購入
- (3) 修理費; 田植機50%, 貯蔵庫17%, 用水ポンプ13%の修理を要し、費用がかさんだ。

# 機 械 研 究 室

## 1. 昨年度の収支実績

### 1) 収 入

第1表 収入実績

品 目	生産量	生産額
ダイズ	420kg	104千円

注) 収入は58年度生産に対するもの。

### 2) 支 出

第2表 支出実績

費 目	金 額(千円)
肥料費	34
農業薬剤費	165
光熱動力費	119
建物及び土地改良設備費	292
農機具費	813
その他の諸材料費	57
その他	26
計	1,506

## 2. 生産概況

### 1) ダイズ

輪換畑での機械化栽培試験に伴う生産。品種シロタエ，出荷量420kg。試験区による収量は221~291kg/10a，粒重は38.3~40.1g/100粒で品質良好であった。5月に施工した引込み暗渠の排水効果は大きく，機械除草を中心とした雑草防除を計画通り高い精度で行えた。害虫防除は天敵(クモ)利用を図り，薬剤散布を2回に抑さえた。今後の課題には，コガネムシ類の防除，ハヤケ病の防除，強風対策，調製作業の機械化・効率化がある。

### 2) コムギ

ダイズ後作としてコムギの密散播機械化栽培試験を行った。品種農林61号，出荷量1,320kg(60年6月)。天候不順のため播種が遅れたが，試験区による収量は435~529kg/10a，1000粒重は30.6~35.4gであった。倒伏による収量と品質の低下，機械収穫作業の能率低下が目立った。密散播での管理作業機械化による多収技術をひきつづき検討する。



### 3. 作業実績

#### 1) 機械受託作業, 援助作業, 機械貸出の実績

第3表 機械受託作業実績

作業名	研 究 室						計	比率%
	作物	畜産	施設園芸	水稻系統保	部長	事務部		
耕起	8.17	41.33			0.50		50.00	13.66
耕耘	52.67	50.25	2.50	9.00	4.50	1.00	119.92	32.77
整地		1.00					1.00	0.27
作条・覆土・鎮圧	3.42	22.25					25.67	7.02
中耕・除草・培土		8.50			1.33		9.83	2.69
代掻	19.67			9.00			28.67	7.84
運搬	17.50	3.50	0.50			27.50	49.00	13.39
草刈	5.33						5.33	1.49
水路道路整備	8.50						8.50	2.32
薬剤散布	2.00				5.00	9.50	16.50	4.51
その他	11.17	10.50	5.00		13.83	11.00	51.50	14.07
計	128.43	137.33	8.00	18.00	25.16	49.00	365.92	100
比率%	35.10	37.53	2.19	4.92	6.87	13.39	100	

単位; 人・時間

第4表 援助作業実績

作業名	研 究 室		計	比率%
	作物	畜産		
水稻収穫	30.00		30.00	65.22
供出	6.00		6.00	13.04
サイロ詰め		10.00	10.00	21.74
計	36.00	10.00	46.00	100
比率%	78.26	21.74	100	

単位; 人・時間

第5表 機械貸出実績

機械名	研 究 室					計	比率%
	作物	畜産	果樹	施設園芸	部長		
トラクタ	88.67	55.00		12.00		155.67	60.14
耕耘機	1.50	24.50	2.00			28.00	10.82
モア	5.50	2.00	6.50	8.00		22.00	8.50
動力噴霧機	5.50	2.00	3.50	24.33	1.50	36.83	14.23
バックホー		16.33				16.33	6.31
計	101.17	99.83	12.00	44.33	1.50	258.83	100
比率%	39.09	38.57	4.63	17.13	0.58	100	

単位; 時間

## 2) 考 察

- (1) 機械受託作業；366人・時間。対前年度35人・時間，9%減。
- (2) 援助作業；46人・時間。対前年度31人・時間，40%減。
- (3) 機械貸出；259時間。対前年度113時間，30%減。
- (4) 総合実績；671人・時間。前年度に対して17.9人・時間，21%減。前々年度実績（647人・時間）水準に低下させることができた。
- (5) 受託作業別；耕起（反転耕）が3.2時間，39%減少し，運搬が3.4時間，226%増加。作業別比率では例年通り耕耘（かくはん耕）が最も大きく，全受託作業の $\frac{1}{3}$ を占めた。
- (6) 受託研究室別；畜産研究室，作物研究室がそれぞれ40%弱を占めた。また，機械貸出についてもほぼ同様であった。
- (7) 援助作業別；水稻収穫が全体の $\frac{2}{3}$ を占めた。
- (8) 貸出機械別；大型トラクタが主であるが，中小型農業機械の比率に増加傾向がみられた。
- (9) 中大型機械の修理；6件18万円を要したが，件数，経費とも前年度のほぼ半分であった。このうち業者への修理依頼は3件12万円。
- (10) 桑園；新植桑樹については管理作業に力を注ぎ順調な生育をみていたが，夏期の旱害を一部受けた。
- (11) 犁耕会；ティラと和犁による犁耕技術の伝承と研鑽を目的として，農業機械学講座と共同で第3回犁耕会を実施した。

## 4. 主要購入機器

1件のみ。歩行型自走式草刈機（共立ハンマーナイフモアRH-70；34万円）を環境美化用に購入。

## 5. 圃場の整備

水田34a（表4区）に引込み暗渠を施工し，輪換畑として整備した。経費20万円。

## 6. トラクタ類の稼働実績

機械研究室の主要トラクタ5台とバックホー1台について月別稼働実績を第6表に示す。表中の数字はアワメータによる使用時間である。

第6表 機械研究室保有のトラクタ、バックホーの稼働時間(アワメータ)

機種	1984年							1985年			年度 合計	月平均		
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1			2	3
FE35X	10.9	13.6	6.2	2.9	1.0	1.1	0.6●	3.3	1.5	5.6	2.4	0	49.1	4.09
MF135	7.3	12.4	6.2	8.2	10.2	15.1	6.8	1.9	3.2●	11.6	1.9	10.4	95.2	7.93
SD4000	11.3	16.0	41.6	12.0	16.7	7.6	3.7	7.0*	6.3	1.3	3.6●	0	127.1	10.59
SE7340T	13.7	15.3	22.7	6.2	8.2	5.3	6.6	5.8	2.9	11.9	2.7	0.7	102.0	8.50
TL1900	26.3	28.0	4.8	69.5	12.0	12.5	5.6	5.9	11.5	8.3	3.1	3.6	191.1	15.93
10HT	16.5	10.1	2.0	2.3	9.2	16.1	7.0	4.7	3.0	8.6	5.8	23.6	108.9	9.08
計	86.0	95.4	83.5	101.1	57.3	57.7	30.3	28.6	28.4	47.3	19.5	38.3	673.4	
平均	14.33	15.9	13.92	16.85	9.55	9.65	5.05	4.77	4.73	7.88	3.25	6.38		

注) FE35X; マッセイファーガソントラクタFE35X(44.5PS), 1964年10月購入,  
 MF135; " MF135(48 PS), 1972年12月 " ,  
 SD4000; シバウラトラクタSD4000AD-O (40 PS), 1979年2月 " ,  
 SE7340T; " SE7340T (73 PS), 1982年2月 " ,  
 TL1900; キセキトラクタ TL1900 (19 PS), 1980年11月 " ,  
 10HT; コマツバックホー 10HT (50 PS), 1980年2月 " .

注) \* : 修理, ● : 車検

# 果 樹 研 究 室

## 1. 昨年度の収支実績

第1表 収入実績

	生産量 (kg)	収入 (千円)
早生温州	10,824	1,086
巨 峰	762	389
マスカットベリー-A	1,266	283
アレキサンドリア	133	133
梅	502	162
柿	158	24
リンゴ	167	30
計		2,107

第2表 支出実績

費 目	支出額 (千円)
肥料費	49
農業薬剤費	402
光熱動力費	270
諸材料費	889
賃借料費	349
建物設備費	200
農機具費	813
雇用費	1,846
計	4,818

## 2. 生産概況

1) カンキツ; 早生温州は全国的な裏年となったが、本園でも減収となった。これは前年度が、やや着果過多であったこと、寒害その他の気象要因が影響したものと思われる。

第3表 最近5年間の早生温州の収量と品質

年度	生産量 (kg)	収 量 (kg/10a)	糖 度 (Brix)	酸 (%)	果実の大きさ別収量 (%)				
					3L	2L	L	M	S
55	19,896	1,658	10.5	1.17	15	27	28	24	3
56	15,417	1,285	11.2	0.80	0	10	29	38	6
57	14,799	1,233	10.9	1.02	15	19	25	30	23
58	21,787	1,816	9.9	0.80	1	5	21	36	11
59	10,824	902	10.4	0.67	12	27	26	24	37

2) ブドウ; 硬核期に出現した生理障害により、ネオマスカット、マスカットベリー-Aは減収となった。巨峰は樹勢が強すぎ、無核果が多くなり減収となった。アレキサンドリアは最高の収穫高となった。

3) ウメ、リンゴ、カキは通常の生産高を示し、ナシは樹体の健全化のために全摘果とした。

4) その他核果類(モモ、スモモ)、品種保存(カキ、ナシ等)は調査用として結実させ、試験に用いた。

第4表 最近5年間のブドウの収量と品質

年度	品 種	生産量 (kg)	収 量 (kg/10a)	糖 度 (Brix)	備 考
5 5	巨 峰	580	580	15.9	
	マスカットベリーA	1,180	787	15.0	
	ネオマスカット	0	0	—	
	アレキサンドリア	22	220	18.4	
5 6	巨 峰	1,017	1,017	17.2	
	マスカットベリーA	1,998	1,332	19.7	
	ネオマスカット	94	783	16.0	
	アレキサンドリア	73	730	17.8	
5 7	巨 峰	1,011	1,011	17.8	
	マスカットベリーA	2,450	1,633	17.0	
	ネオマスカット	496	400	16.5	
	アレキサンドリア	71	710	18.6	
5 8	巨 峰	1,236	1,236	18.3	
	マスカットベリーA	1,584	1,056	17.2	果実生理障害
	ネオマスカット	3	25	16.4	〃
	アレキサンドリア	102	1,020	18.2	
5 9	巨 峰	762	762	17.5	気象生理障害
	マスカットベリーA	1,266	1,013	17.0	果実生理障害
	ネオマスカット	50	400	13.5	〃
	アレキサンドリア	133	1,330	16.5	

### 3. 作業実績

第5表 作業実績

内 容	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通常勤務	434	472	588	500	497	432	587	404	359	434	335	486	5,548
超過勤務	62	56	129	168	67	76	33	36	31	34	24	18	734
教官補助	54	2	2	10	33	44	1	10	0	32	0	2	190
臨時雇用	192	280	416	320	288	360	424	456	304	392	456	456	4,344
計	742	810	1,135	998	885	912	1,045	906	694	892	835	962	10,816
(種類別)													
みかん	82	66	71	90	111	53	359	400	177	19	10	345	1,783
ブドウ	12	387	563	517	341	486	41	20	113	626	344	206	3,656
品種保存	335	70	331	176	278	120	193	283	138	168	295	258	2,645
共通	297	189	125	158	99	157	339	109	57	22	146	87	1,785
その他	16	98	45	57	56	96	113	94	209	57	40	66	947

単位：時間

### 4. 主要購入機器

- 1) 小型特殊自動車；筑水農機，ライガーGX-9

# 施設園芸研究室

## 1. 昨年度の収支実績

### 1) 収入の部

#### (1) 生産物収入

年度当初、生産物収入は2,875,000円を計上したが、実績は2,928,459円となり約5万円の収入超過となった。

これを作物の種類別にみると、そ菜の部では春のキュウリは約1.2tの減収であったが、単価が予想価格より高く、そのため約4万円の収入減にとどまり、秋は逆に生産量は予想量をオーバーしたが、単価が安く約10万円の減収となった。

メロンは春、秋ともに予想生産量に近い数字を得たが、春は16万円の増収、秋はバイラスの被害のために、品質が著しく悪く17万円の減収となった。最終的には、春・秋合わせてどうやら予想額に近づいた。

セルリーについては、予想通りの生産量と収入をあげた。

花卉の部の春の鉢物はアジサイ、ペゴニア、クラスラが主なもので、販売数量、収入ともに予想の約2倍の実績が上がった。秋の鉢物はシクラメンがほとんどを占め、例年になく開花が早く、市場出荷で高値を呼び約10万円の増収となった。

第1表 作物別生産量とその収入

作物	生産量		収入	
	予想	実績	予想	実績
キュウリ(春)	4,500 kg	3,312 kg	540,000 円	503,274 円
"    (秋)	1,700 "	1,839 "	340,000	239,652
メロン(春)	700 個	869 個	560,000	722,725
"    (秋)	800 "	780 "	640,000	469,400
セルリー	1,500 株	1,794.9 株	225,000	242,468
その他		120 kg		8,400
小計				2,185,919
鉢物(春)	300 鉢	621 鉢	90,000	167,240
"    (秋)	600 "	1,016 "	480,000	575,300
小計				742,540
合計			2,875,000	2,928,459

#### (2) 貸鉢による移算

学内に対する貸鉢数は、大鉢18、中鉢69、小鉢83の合計170鉢である。58年度に比べ、中鉢が1増、小鉢が4の減となり、移算額は総額1,650,000円で、12,000円の減とな

った。鉢の取替えは病院地区と箱崎地区に2分し、月に1回、2日間をかけて行なっている。

第2表 貸鉢数と移算額

部 署	大 鉢		中 鉢		小 鉢	
	鉢数	金 額	鉢数	金 額	鉢数	金 額
本 部	84	126,000円	360	363,000円	516	258,000円
農 学 部	36	54,000	108	108,000	156	78,000
医 学 部	12	18,000	24	24,000	24	12,000
病 院	24	36,000	84	84,000	60	30,000
薬 学 部	—	—	12	12,000	12	6,000
工 学 部	48	72,000	12	12,000	24	12,000
理 学 部	—	—	36	36,000	48	24,000
文 学 部	—	—	24	24,000	—	—
法 学 部	—	—	36	36,000	36	18,000
教 育 学 部	—	—	36	36,000	—	—
演 習 林	12	18,000	24	24,000	36	18,000
電算機センター	—	—	36	36,000	36	18,000
経 済 学 部	—	—	24	24,000	24	12,000
中 央 図 書	—	—	12	12,000	24	12,000
小 計	216	324,000	828	828,000	996	498,000
合 計						1,650,000

2) 支出の部

支出では、雇用費42.5%、農機具24.4%、光熱動力費16.2%で、3者の合計は83.1%にも達した。農機具費は灌漑用水ポンプの取替え、水槽の攪拌機と換気扇のモーターの修理が主たるもので、永年の使用により摩耗したものである。光熱動力費は、そのうちの約80%がハウス暖房用の重油代である。58年度に比べると、肥料、農業薬剤費が前年度末の買だめにより減少し、重油の節減と建物修理費の減少が目立った。しかし、その代りに農機具の修理費が増大した。雇用費は定員化職員の増員で、花卉の日々雇用者を1名減員したので、200万円から162万円に減少した。

第3表 支出実績

費 目	金 額	割 合
種 苗 費	224,800円	5.9%
肥 料 費	6,250	0.2
農 業 薬 剤 費	13,900	0.4
光 熱 動 力 費	618,690	16.2
その他諸材料費	332,730	8.7
賃借料及び料費	56,201	1.5
農 機 具 費	933,140	24.4
雇 用 費	1,625,200	42.5
そ の 他 費 用	15,557	0.4
計	3,826,468	



## 2. 生産概要

### 1) キュウリ

春作は、4.5 tの計画が3.3 tに落ち、1.2 tの減産、秋作は1.7 tに対して1.8 tと0.1 tの増産となった。キュウリの生産がこのように栽培年や栽培時期によって、作柄が不安定な原因としては連作による地力の低下及び線虫などによる病害虫の多発によるものとする。その上、被覆材のファイロンの老朽化による太陽光線の透過率の低下も重なって、年々生産量が低下しているものとする。

### 2) メロン

春のメロンは順調であり、品質的にも可成りの評価を得た。しかし、秋のメロンは育苗時の防除が徹底せず、メロンがバイラスに罹病し、果実の肥大も悪く、著しく品質が低下した。

### 3) セルリー

1株2 kgを目標としたが、実際には遠く及ばず、1株1.5 kg前後のものが大勢を占めた。これは、キュウリの収穫が11月一杯にも及んだために、セルリーの定植が12月上旬まで遅れたためである。

### 4) シクラメン

シクラメンは種子の選抜と栽培管理の技術的向上により早期一斉開花を実現した。そのため、市場における評価が一段と高まった。今後はさらに早期開花と品種の純化に努め、研究部長の助言もいただいて、大いに発展させたいものである。

## 3. 作業実績

作業実績をみると、その他の項目が26.3%で最も多く、次に鉢物23.9%、キュウリ15.5%、メロン11.0%と続いた。メロンの栽培管理は学生実習に全面的に取り入れており、学生実習により約50日分と見積もると合計179日となり、キュウリと同じぐらいの日数を要したことになる。キュウリ、鉢花、シクラメン、その他の花卉は仕事が過年的であるのに、メロンとセルリーは時期的に片寄っている。メロンの栽培時期と学生実習が同一時期であることは、学生実習がメロンの栽培管理を中心に行なわれていることを示唆するものである。

第4表 作業実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
キューリ	17	23.5	27	9.5	27.5	16.5	19.5	10.5	2	4	9.5	15.5	182
メロン	12	22	5	30.5	26	7	12.5	1			7.5	5.5	129
セルリー						2	5	10	1	5	2	17	42
鉢花	29	26	30.5	28.5	18.5	20	22	20	22	19.5	17	26.5	279.5
シクラメン	8	5	5	3.5	3	11	8	6	8	7	6	5	75.5
その他花卉	3.5	5	6.5	5.5	4	4	4	5	6.5	13	4	9	70
学生実習	15.5	3.5	2	14.5		1.5	3	7.5					59.5
研修	3	1	1	1	1	1	6	1	1	3	3	3	25
その他	15	17	24.5	12	15.5	30	26	33	49.5	35.5	37	13	308
合計	103	103	101.5	105	95.5	93	106	94	90	87	91	101.5	1,170.5
職員3名	63	63	61.5	69	61.5	57	66	60	60	57	57	61.5	736.5
雇用・超勤	40	40	40	36	34	36	40	34	30	30	34	40	434

単位：日

# 畜 産 研 究 室

## 1. 昨年度の収支実績

1) 収入実績は第1表に示すとおり、牛乳による収入が、函詰牛乳で1,024.6万円、ヨーグルトで19.8万円およびバターで2.1万円となり、収入全体の約71%である。その他は、肉用牛、廃牛が393.5万円、豚および加工品が24.1万円である。

第1表 収入実績

品 目	生産量	生産額(千円)
函 詰 牛 乳	53,925 函	10,246
ヨ ー グ ル ト	1,647 函	198
バ タ ー	83 個	21
卵	81.3 kg	21
肉 用 牛	5 頭	2,116
廃 牛	5 頭	1,819
肥 育 豚	4 頭	132
鶏	15 羽	1
豚 肉		
肉 加 工 品	89.22 kg	109
計		14,663

第2表 支出実績

費 目	金額(千円)
種 苗 費	164
肥 料 費	
農 業 薬 剤 費	
光 熱 動 力 費	887
諸 材 料 費	1,453
賃借料および料金	
飼 料 費	4,173
獣医師料および薬品費	188
建 物 お よ び 土 地 改 良 設 備 費	612
農 機 具 費	101
家 畜 費	
そ の 他	512
計	8,090

2) 支出については第2表に示すとおりである。飼料費が例年のように全体の50%を超えている。その他、特別設備費でボブキャットローダを購入した。

## 2. 生産概況

1) 牛乳の年度別産乳量は第3表に示すように、59年度は過去5年間で最低で、56,573.8 kgであった。分娩頭数は8頭であったが、年度末(1~3月)に4頭分娩しているため、それらの牛の乳量が少なく全体の乳量を減少させている。個体別産乳量は、6,000 kg以上が1頭、5,000 kg以上が1頭、4,000 kg以上が6頭、3,000 kg以上が3頭、3,000 kg以下が3頭となっている。また58年度と比較し、分娩間隔の長いものが増えている(第4表)。

第3表 年度別乳量

年 度	54	55	56	57	58	59
乳量(kg)	71,755.4	65,996.3	59,433.4	57,457.4	64,652.4	56,573.8

第4表 個体別分娩間隔および乳量

乳牛名	生年月日	産次数	分娩月日	子の性	前回分娩	間隔	年間乳量(kg)
アルベル、メドレーク	56. 6.28	1	59. 4.21	雌			6,886.2
43リアリー、メドレーク	56. 6.16	1			58. 8.25		4,915.4
ロイブル、R. スバルチング	54.11. 5	4	60. 2. 2	雄	59. 1.11	388	3,655.0
アルベル、R. ピラー	47.11. 3	5	59. 7. 2	雄	57.12.29	551	5,827.4
アルベル、R. キャロル	53. 7.18	1			57. 2. 9		360.4
ロイブル、J. ピンナクル	49. 9.26	7	60. 2. 2	雌	58. 3. 1	704	2,669.0
アルベル、B. D. ローヤル	53. 6.30				58. 2.25		4,759.6
ロイブル、J. テキサス	52. 9.12	5	60. 2.21	雄	58. 3.26	698	2,810.8
アルベル、B. D. ウォーカー	45. 1.29	10			57. 7. 7		3,023.4
アルベル、B. D. フォンド	57. 7. 7	1	59. 7.20	雄			4,210.6
22リアリー	49. 9.11	6			59. 1. 6		4,324.4
リアリー-R. コンファィダンス	54.10. 8	5	59. 9.17	雌	58. 6.14	461	4,758.4
43リアリー-S. リンドン	51. 2. 7	4			58. 1.20		3,532.8
22スプリング	52.10.11	5	60. 1.19	雌	58. 8.18	520	4,860.4

第5表 乳牛の疾病

乳牛名	発生年月日	病名
22リアリー	59.12.20	右後肢飛節関節炎
ロイブル、J. ピンナクル	60. 1.29	右後乳頭踏傷
ロイブル、R. スバルチング	60. 3.16	左前乳房炎

2) 乳牛の疾病は少なく、第5表に示すとおり3頭だけであった。

3) 肉用牛の増体については、第6表に示すように、乳牛牝は1日増体量が650~750gであったが、和牛では約400gであり、一般肥育に比較して劣っている。また乳牝の2、3号は、出荷前46日間舎飼したが、期間が短かったため、4、5号と比較して、その効果は見られなかった。

第6表 肉用牛の増体量

個体番号	肥育日数	1日増体量(g)	備 考	
			年月日(kg)	年月日(kg)
乳牝1	177	678	59. 4. 4(614)~59. 9.28(734)	出 荷
2	240	638	59. 4. 4(553)~59.11.30(706)	出 荷
3	240	713	59. 4. 4(540)~59.11.30(697)	出 荷
4	240	700	59. 4. 4(516)~59.11.30(684)	出 荷
5	355	755	59. 4. 4(494)~60. 3.25(762)	出 荷
6	291	670	59. 6.29(175)~60. 4.16(370)	育 成
和牝1	355	439	59. 4. 4(402)~60. 3.25(558)	出 荷
牝1	86	395	59. 4. 4(523)~59. 6.29(557)	出 荷
2	183	563	59.10.15(231)~60. 4.16(334)	育 成
3	183	634	59.10.15(234)~60. 4.16(350)	育 成

4) 飼料作物については、第7表に圃場別、作物別の収量を、第8表に月別の収量を、第9表に利用形態をそれぞれ示した。全収量は約304tであり、58年度より約30%増であった。そのうち、ライグラスは約70%増の173t、エンバクは約3倍の54tであったが、一方、デントコーンは約45%に減少して約33tであった。しかしながら( )内に示すように約16tが雑草と共に別に収穫されている。利用については、青刈は58年度と同様、約145tであったが、サイレージが約73%増の128t、乾草が約2倍生産されている。

第7表 圃場別飼料作物別収穫量

圃場	ライグラス	エンバク	カブ	デントコート	ソルゴー	竜北グラス	計
鶴見1	25.85						25.85
2	21.45	13.33		(約10.00)乾草	15.64		50.42
3	34.78	12.30		4.97(約3.00)			52.05
4		3.90		5.72			9.62
新園2		1.00					1.00
4	17.31	14.77		12.47			44.55
5							
7	9.37		13.07				22.44
桑園1	3.66	8.62		2.57(約3.00)			14.85
2				7.07			7.07
放牧2	19.74						19.74
3	37.91				9.04		46.95
表21	2.85					6.50	9.35
計	172.92	53.92	13.07	32.80(約16.00)	24.68	6.50	303.89 (16.00)

単位：t ( )内は雑草を含む

第8表 月別飼料作物収穫量

月	ライグラス	エンバク	カブ	デントコーン	ソルゴー	竜北グラス	計
4	27.35						27.35
5	77.72	24.39					102.11
6	11.30			1.37		2.95	15.62
7	6.70			16.39	7.96	1.00	32.05
8					1.55	1.40	2.95
9				15.04	15.17		30.21
10	3.20					1.15	4.35
11	4.83						4.83
12	10.42	13.33					23.75
1	17.71	16.20	1.12				35.03
2	4.61		6.89				11.50
3	9.08		5.06				14.14
計	172.92	53.92	13.07	32.80	24.68	6.50	303.89

単位：t

第9表 飼料作物別利用形態

飼料作物	青刈	サイレージ		乾草	計
		コンクリート	スチール		
ライグラス	115.55	19.30	7.87	30.20	172.92
エンバク	4.20	14.33	35.39		53.92
カブ	13.07				13.07
デントコーン	1.37	16.39	15.04		32.80
ソルゴー	4.45	7.11	13.12		24.68
竜北グラス	6.50				6.50
計	145.14	57.13	71.42	30.20	303.89

単位； t

5) 堆厩肥生産および利用については、第10表に示す。ボブキャップでの積上げ、切り返えしが可能となり、約75%を堆肥舎内で腐熟させて利用した。

表10 堆肥生産および利用

年月	鶴見1	鶴見2	鶴見3	鶴見4	新園2	新園4	新園5	新園7	桑園2	放牧2	堆肥舎	その他	計
59. 4			4.6								1.7		6.3
5											5.9		5.9
6		7.0									2.1		9.1
7											3.2 (施園2.0)		3.2
8			5.0				2.0						7.0
9							0.5	1.1			5.0		6.6
10								1.2			2.3		3.5
11											7.0		7.0
12											18.0		18.0
60. 1											12.5		12.5
2							5.0				8.8		13.8
3							2.0				16.3		18.3
計		7.0	9.6				9.5	2.3			82.8		111.2

単位； t